記入例

収入計算書【令和9年4月進学者用】【記入例】

新潟大学大学院博士課程奨学金の申請にあたり、以下のとおり収入に関する状況を報告します。

ﾌﾘｶﾞﾅ 申請者氏名		学籍番号	
所属する研究科・専攻	研究科 専攻	進学予定の研究科・専攻	研究科 専攻

【 収入状況 ： 令和7年実績 】　　［各項目1千円未満切り捨て］

令和7年1月～12月の収入金額
（根拠資料として、令和7年分の所得証明書や源泉徴収票、給与明細等を添付すること）

No.	収入項目	根拠資料	収入金額		
①	定職（本人）	要	（年額）	●源泉徴収票の収入金額 ●給与明細総支給額3ヶ月分の平均値×12ヶ月又は実績月数 ●給与支払証明書の年額	70 千円
②	定職（配偶者） 【該当がある場合のみ記入】	要	（年額）		2,700 千円
③	アルバイト （複数ある場合は合算）	要	（年額）		100 千円
④	父母等からの援助	不要	（年額）	●仕送り・授業料・家賃等 ●自宅通学者は、世帯一人当たりの経費（世帯年間経費÷家族人数）	540 千円
⑤	奨学金	要	（年額）		600 千円
⑥	その他の収入 （利子・配当・不動産・年金等の公的手当て・預貯金の取崩等）	要	（年額）		0 千円
★	配偶者の給与所得控除	不要	（年額）	【例】配偶者の収入金額が2700千円の場合⇒2700千円×0.2＋2140千円（参考2を参照）	△ 2,680 千円
収入額合計			（年額）		1,330 千円

［参考1］家計基準

本人及び配偶者（配偶者は定職収入がある場合のみ）の令和7年分（1～12月）の収入金額が、合計340万円以下であることが必要です。ただし、令和7年の収入金額に対して、令和8年の収入見込額に変動がある場合は、令和8年の収入見込額を以て判定しますので、令和8年の収入見込額が合計340万円以下である必要があります。なお、配偶者が給与所得者である場合は、配偶者の収入金額から下表の控除額を引いて計算します。

［参考2］ 配偶者の給与所得控除（★）

年間収入金額（控除前）	控除額
268万円未満の場合	年間収入金額と同額
268万円以上　400万円以下の場合	年間収入金額×0．2＋214万円
400万円を超え781万円以下の場合	年間収入金額×0．3＋174万円
781万円を超える場合	408万円

記入例

以下の該当する方に「〇」を付けてください。

	令和8年の見込収入は、令和7年実績から変動しません。	→	このページは記入不要。
〇	令和8年の見込収入は、令和7年実績から変動します。	→	両ページの各項目をすべて記入。 （変動しない項目は同じ金額を記入。）

※「変動する」とは、転職や退職等により収入が変わることを指します。
収入の若干の「ゆらぎ」は変動に含みません。

【 収入状況 ： 令和8年見込 】

［各項目1千円未満切り捨て］

令和8年1月～12月の収入金額
（根拠資料として、令和8年分の給与支払（見込）証明書や直近の給与明細等を添付すること）

No.	収入項目	根拠資料	収入金額			
①	定職（本人）	要	（年額）	●給与明細総支給額3ヶ月分の平均値×12ヶ月又は実績月数 ●給与支払（見込）証明書の年額	70	千円
②	定職（配偶者） 【該当がある場合のみ記入】	要	（年額）		2,000	千円
③	アルバイト （複数ある場合は合算）	要	（年額）		0	千円
④	父母等からの援助	不要	（年額）	●仕送り・授業料・家賃等 ●自宅通学者は、世帯一人当たりの経費（世帯年間経費÷家族人数）	300	千円
⑤	奨学金	要	（年額）		600	千円
⑥	その他の収入 （利子・配当・不動産・年金等の公的手当て・預貯金の取崩等）	要	（年額）		0	千円
★	配偶者の給与所得控除	不要	（年額）	【例】配偶者の収入金額が2000千円の場合⇒2000千円（参考2を参照）	△ 2,000	千円
収入額合計			（年額）		970	千円